

2021年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
キャリアデザインについて考えてみよう		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2425	1000LB1AS00095	【教養教育】学びのリテラシー (2)
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
恩幣 宏美 [Ombe Hiromi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

今後、変化の激しい社会で活動、活躍する皆さんにとって、アイデンティティを活かして仕事をする事、ライフコースについて考えることは重要となる。そこで、本講義では、自律したキャリアをデザインするために必要な知識やスキルについて、文献や資料、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して理解する。

具体的には、

1. 自分自身について理解する
2. コミュニケーション力の必要性和スキルについて理解する
3. 社会で働くことの意味について理解する
4. 国内外の理論からキャリア発達について理解する
5. ライフコースを通じての「自分自身」のキャリアデザインについて理解する
6. わかりやすいプレゼンテーションを実施する

■ ■ 授業の到達目標

1. 自分自身について客観的に省察できる
2. コミュニケーションを高めるためのスキルについて説明することができる
3. 仕事と社会に関する文献検討から、社会で働くことの意味について説明できる
4. 国内外の文献とからキャリア発達について説明できる
5. キャリアデザインについての自分の考えを説明することができる
6. わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- A : 諸科学についての基礎的知識と理解○
 B : 論理的・創造的思考力◎
 C : コミュニケーション能力◎
 D : 社会的倫理観・国際性◎

■ ■ 授業概要

キャリアデザインを検討するにあたり必要となるキャリアに関する理論の定義や概要、スキルについて学習する。また、自身および国内外におけるキャリア発達に関する課題を検討することで、今後、社会で活動・活躍するために必要となるコミュニケーション力やクリティカルシンキングに関する力を養う。継続教育の実務経験のある教員が、その実務経験を活かして、キャリアデザインの授業を行う。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義、グループワーク、フィールドワーク、課題レポート、プレゼンテーション

■ ■ 授業スケジュール

1. オリエンテーション
 2. 自分を知る：SWOT分析
 3. 自分を知る：学生力診断
 4. 自分を知る：社会人基礎力
 5. 自分を知る：今までの軌跡と経験を知る
 6. 自分を知る：今後の生き方を考える、ライフコース
 7. 自分を知る：コミュニケーション力
 8. 社会を知る：働くとは？ ロールモデル
 9. 社会を知る：ワークライフバランス
 10. 社会を知る：会社、企業とは
 11. 社会を知る：日本のキャリアに関する現状を知る1
 12. 社会を知る：日本のキャリアに関する現状を知る2
 13. 社会を知る：世界のキャリアに関する現状を知る1
 14. 社会を知る：世界のキャリアに関する現状を知る2
 15. まとめ
- 最終試験：レポート課題の提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

様々な文献や資料、新聞等を読むことと、レポートとプレゼンテーションの準備を行うための時間が必要となる。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

グループワークへの参加度 (20%)、プレゼンテーション (30%)、個人レポート (50%) の割合で総合的に評価する。評価はS (90-100点)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、D (59点以下) の5段階で、Dは不合格とする。ただしSは、クラスの5%以下とする。

■ ■ 受講条件 (履修資格)

グループワークに積極的に参加することが条件となる。グループワークのため受講者数は25名までとする。

■ ■ メッセージ

今後、社会で活動、活躍するためには、キャリアデザインを踏まえて、充実した大学生活が大切です。その基礎となる知識とスキルをぜひ、一緒に考えていきましょう。欠席の際は、必ずメールでお知らせください。また、グループワーク等でパソコン等を使用するため、ご準備ください。

■ ■ キーワード

キャリアデザイン、キャリア発達、アイデンティティ、ダイバーシティ、実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

学びのリテラシー1

■ ■ 次に履修が望まれる科目

各学部の専門科目

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

指定図書はないが、適宜、参考図書を紹介する。また、講義時に資料を配布する。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2021 年度 後期 教養教育		日英区分：日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2211	1000LB1HS00018	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込む臓器です。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこります。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの知識についてやさしく解説します。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活に役に立つ基本的な知識を身に付けることを目的とします。

■ 授業の到達目標

教養教育の科目ですので、専門知識がなくても理解できるレベルです。

以下を到達目標とします。

基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。

代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。

呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
 B：論理的・創造的思考力 ○
 C：コミュニケーション能力 -
 D：社会的倫理観・国際性 -

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部専門教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説します。（呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症に対する専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行います。）

■ 授業の形式（授業方法）

プリントを配布し、講義形式。

■ 授業スケジュール

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
 第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
 第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔ないようにしましょう
 第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
 第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
 第6回 結核、なぜマスクで騒がれたのでしょうか？
 第7回 まとめ①
 第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
 第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
 第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
 第11回 花粉症を何とかするには？
 第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気 - 過敏性肺炎
 第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
 第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
 第15回 呼吸リハビリテーション
 第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

教科書は必要ない。毎回プリントを配布する。よく復習し、知識を確実なものにして欲しい。試験は記述式であり、プリント内容を理解していれば解答できる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

試験にて評価する。成績評価は、S(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、D(59点以下)とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがあります。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように努めましょう。新しい話題も随時取り入れてやさしく解説します。

■ ■ キーワード

肺 呼吸器 喫煙 肺がん 結核 アレルギー 喘息 睡眠時無呼吸症候群 ω 3 脂肪酸 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

特になし

■ ■ 次に履修が望まれる科目

特になし

■ ■ 関連授業科目

特になし

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

特になし

■ ■ [コース管理システム \(Moodle\) へのリンク](#)

2021 年度 前期 教養教育		日英区分：日本語
生命保険の仕組みと活用を考える		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB1277	1000LB1IS00071	【教養教育】総合科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
杉山 学 [Sugiyama Manabu], 荒木 孝志 [Takashi Araki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

社会保障制度の仕組みや自助努力で将来に備えることの重要性を理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組み・役割等について学ぶことを通じて、これからの持続可能な社会を営む一員として役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することが出来る。
現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組みを理解し、説明することが出来る。
大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することが出来る。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ◎
B：論理的・創造的思考力 ◎
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 ○

■ 授業概要

この授業では、まず私たちを取り巻く経済環境について概観する。
その理解の上に立ち、少子高齢化社会の一層の進展により、表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、公的保障と私的保障の多様なあり方や、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性や有用性について理解し、考察を深めていく。
また、グループ単位で課題分析・解決策等を議論し、提言としてまとめあげるグループディスカッションも予定している。
全ての講義において、大手生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業全般に深く精通した幅広い知識・経験・実績を有する講師陣が担当する。
経験談や最新の情報提供も随所に織り込み、理論と実践の両面から理解を深めていく。

■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習（グループディスカッション）。
演習（グループディスカッション）は2回程度、少人数に分かれて与えられたテーマに対する解決策の議論等を行う。

■ 授業スケジュール

- 1：オリエンテーション・生保総論
- 2：生活設計とリスク管理
- 3：公的保障と生保（死亡・医療）
- 4：公的保障と生保（老後・介護）
- 5：生保契約の仕組み
- 6：生保と税金
- 7：グループディスカッション
- 8：生保商品の変遷・動向
- 9：生保に関する調査
- 10：生保会社の組織・業務
- 11：資産運用
- 12：金融ADR
- 13：震災対応
- 14：グループディスカッション
- 15：総括

※受講生の理解度や履修人数によっては、内容・順番を見直す場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

授業で使用した資料に基づいて一時間程度の復習を行うことが、内容理解において望ましいと考えます。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

<オンライン授業のため変更>

毎回の課題提出を基本に、受講状況を見ながら、総合的に評価することとします。
最終試験は実施しませんが、商品提案ディスカッション、及び、最終提出レポートでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

<下記は変更前>

授業への参加度+（受講回によって実施）小レポート等の内容 60%

「最終試験得点」40%で評価します。

最終試験は学期末に実施します。下記の観点から評価を行います。

- ・社会保障制度の概要の理解
- ・生命保険の意義・役割・仕組みの理解

小レポート、グループディスカッションでは、課題に対して自分なりにどのように考察し、それを説明できているかを評価します。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

少子高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況について、メディア等を通じて情報収集し、課題認識の向上を図ると、より講義が楽しく理解できるようになると考えます。その上で、生活設計・生命保険について学ぶことは、それぞれの人生について考える大変有益な機会にもなると考えます。

■ キーワード

公的保障と私的保障
公助と自助
生活設計
リスク管理
実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

毎回の講義時に資料を配布する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

2021 年度 後期 共同教育学部		日英区分:日本語
教職論		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2011	1015EB1AA00201	【共同教育学部】教育基礎科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次～2年次	1

■ ■ 授業の目的

教職入門期に、教師として必要とされる資質・能力等について理解するとともに、目指す教師像を自分なりに具体化していくことをねらいとする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・「心ある教師」に必要な資質・能力について理解するとともに、その教育態度について実感することができる。
- ・教師としての成長と振り返り(リフレクション)の関係について、体験的に理解することができる。
- ・自身の理想とする教師像を具体化することができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E: 学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
 F: 子どもの成長・発達と教育方法 ○
 G: 教科・教育課程に関する知識と技能 –
 H: 学校教育に関する様々な課題 ○
 I: 他者との協働 ○

■ ■ 授業概要

本講義は、教師の日常的職務活動の具体的な場面を想定し、学級担任としての具体的な教育行為について考察・体験することを通して、教育実践者としての教師のリアリティに接近する。幼・小・中・特支学校で学級担任として勤務した経験者を適宜紹介しつつ、学校種(子どもの発達)を超えた教師としての有り様と学校種(子どもの発達)に応じた教師の有り様についても考察していく。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習。講義では、各回に提供された話題について5、6名のグループで話し合い、自分なりの考えをもつ機会を設ける。また、本授業のまとめとして位置付ける演習では、学級開きの場面を想定し、学級担任として子どもたちに語りかける活動を行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：なぜ教師を目指すのか（本講義を貫く課題について）
 第2回：教師とは（「心ある教師」の姿から考える）
 第3回：教師に求められる資質と能力
 第4回：教師の仕事と責務
 第5回：チームでつくる学校・学級（学校内外の専門性を活用して）
 第6回：教師としての成長を促すもの（同僚性・協働性を基盤として）
 第7回：教師として語る（模擬授業と交流会）
 第8回：理想とする教師像
 レポート提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事後学習として、各回の小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

成績評価の方法：授業への積極的な参加態度(30%)、毎回実施の振り返り小レポート(40%)、課題レポート(30%)

成績評価の基準：

- ・教師に求められる資質・能力と教師としての成長を促す省察の重要性について理解している。
- ・自身の理想とする教師像を具体化している。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

教師の資質・能力 省察 教師の仕事 同僚性・協働性 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2021 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
小学校音楽 A		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2187	1015EB2BA00601	【共同教育学部】 小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
菅生 千穂 [Sugo Chiho]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～2年次	1

■ ■ 授業の目的

小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。

■ ■ 授業の到達目標

小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。

- 1) 小学校音楽の授業において必要とされる音楽の構成要素とその表記の方法がわかる。
- 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解し、選んだり工夫したりして使用できる。
- 3) 調性の基礎について理解する。
- 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
- 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
- 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

この授業は本学のディプロマポリシー項目に下記のように関連する。

- E：学校教育・教職の基礎理論と知識（Basic theory and knowledge about school education and teaching profession）○
 F：子どもの成長・発達と教育方法（Growth and development of children and educational methods）◎
 G：教科・教育課程に関する知識と技能（Knowledge and skills related to subjects and curriculum）◎
 H：学校教育に関する様々な課題（Various issues related to school education）◎
 I：他者との協働（Cooperation with others）○

■ ■ 授業概要

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして本授業を行う。

下記の内容にそって、講義をもとに音楽の基礎的知識を身につけながら、実技も学習する。

- 1) 小学校音楽の授業において最低限必要とされる基礎的な範囲で、音楽の構成要素とその表記の方法を知ること（楽典）。
- 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解する。
- 3) 調性の基礎について理解する
- 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
- 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
- 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ 授業の形式（授業方法）

クラス形式の講義と演習（ピアノの演習・楽器を用いた演習）

■ ■ 授業スケジュール

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員による授業（全回）

- 第1回：ガイダンス、および小学校教科「音楽」について
 第2回：基礎楽典① 音階のしくみ
 第3回：基礎楽典② 和音のしくみ
 第4回：基礎楽典③ リズムと拍子
 第5回：演習① 八長調・イ短調の演奏
 第6回：演習② ト長調・ホ短調の演奏
 第7回：演習③ ヘ長調・二短調の演奏
 第8回：演習④ リズムパターンと伴奏付け
 第9回：演習⑤ 歌唱
 第10回：演習⑥ 歌唱
 第11回：演習⑦ 創作
 第12回：演習⑧ 創作
 第13回：演習⑨ 様々な音楽活動
 第14回：演習⑩ 様々な音楽活動
 第15回：演習⑪ 様々な音楽活動
 定期試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

教科書や関連研究等の予習・復習を勧める。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

平常の積極的参加状況（授業記録カードを含む）、グループ発表、楽典テストにより総合的に判断する。

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

学校での音楽は、教師（みなさん）自身が楽しみながら、授業を行うことが大切です。みなさんも、楽しみましょう。自宅でオンラインで受講する人は、練習できるキーボード（小さくても良い）やピアノを用意してください。自分のリコーダーも手元に用意してください（実家等にある人は、持ってきてください）。

■ キーワード

小学校音楽、伴奏付け、器楽、歌唱、創作（音楽づくり）、弾き歌い、楽典、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

初等科音楽科指導法

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784316804415				
	書名	「先生力」をつける…待ち遠しい音楽授業のために♪				
	著者名	橋本龍雄, 松永洋介, 吉村治広	出版社	教育出版	出版年	2017
	備考					

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784877884222				
	書名	新 音楽の授業づくり				
	著者名	音楽の授業づくり研究会編	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

参考書2	ISBN	9784877883775				
	書名	おんがくのしくみ ～歌って動いてつくってわかる音楽理論～				
	著者名		出版社	教育芸術社	出版年	2008
	備考					

参考書3	ISBN	9784534038661				
	書名	やさしくわかる楽典				
	著者名	青島広志	出版社	日本実業出版社	出版年	2005
	備考					

参考書4	ISBN	9784877883232				
	書名	心を育む子どもの歌				
	著者名	南 曜子, 今村方子, 今川恭子	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

教科書、自宅練習のための鍵盤楽器、リコーダーの用意について授業内で案内する

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=1933>

2021 年度 後期 共同教育学部		日英区分:日本語
初等英語科指導法		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2217	1015EB2BB01001	【共同教育学部】 小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
渡部 孝子 [Watanabe Takako]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～2年次	2

■ ■ 授業の目的

- ・外国語活動についての専門的な知識を高める
- ・外国語活動の指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う小学校外国語活動に関する基本的な知識や指導法を学ぶ。

■ ■ 授業の到達目標

- ・言語習得に関する知識を得る
- ・小学校における英語教育実践の理論と実践を学ぶ
- ・ALTと英語でコミュニケーションできるようになる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- ・外国語活動についての専門的な知識を高める
- ・外国語活動の指導法など、学校教員として必要となる知識・技術を培う

評価観点は以下の通りである。

- 優れた人間性と豊かな教養を有している者 ○
- 各教科の内容について、深い認識を有している者 ○
- 教科について、実践的な指導力を有している者 ◎
- 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者 ○
- 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分理解している者 ○
- 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者 ○

■ ■ 授業概要

小学校外国語活動について、学習指導要領から言語習得、外国語教授法など指導に関わる基礎知識を学ぶ。また、ALTとのコミュニケーションの演習も取り入れ、英語コミュニケーション能力を養う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義、コミュニケーション活動、討論など

■ ■ 授業スケジュール

1. 外国語活動の目的と目標（1章）
2. 外国語活動の意義と方向性（2章）
3. 指導者の役割と求められる資質（3章）
4. 教材・テキストの構成と内容（4章）
5. 教材・テキストの構成と内容（4章）
6. 指導目標、年間指導計画の立て方と具体性（5章）
7. 言語材料と4技能の指導（6章）
8. 教材研究①
9. 教材研究②
10. 教材研究③
11. 指導法と指導技術（9章）
12. 指導法と指導技術（9章）
13. 教材・教具の活用（10章）
14. 評価のあり方（11章）
15. 外国語活動の成果と課題（12章）
16. 試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

教科書、学習指導要領や事前に配布された資料をしっかりと読んでおいてください。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

課題（小テストなど）60%

レポート40%

■ ■ 受講条件（履修資格）

2年生以上

■ ■ メッセージ

これからの小学校英語教育について共に学び、考えていきましょう。
オフィスアワー 月曜日 14:30-15:30 水曜日 10:30-11:30
アポイントをとってください。お願いします。

■ キーワード

English Activites, TESOL, Language Acquisition 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

小学校英語教育の基礎英会話A、B

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784327410988				
	書名	新編 小学校英語教育法入門 = An Introduction to English Education in Elementary School				
	著者名	樋口忠彦, 加賀田哲也, 泉恵美子, 衣笠知子 編著,	出版社	研究社	出版年	2017
	備考					

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

小学校英語教育の進め方 成美堂、岡秀夫・金森強

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

2021 年度 後期 共同教育学部		日英区分:日本語
幼児と環境		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2134	1015EB1JB00103	【共同教育学部】選択科目
■ ■ 担当教員 (ローマ字表記)		
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次～4年次	1

■ ■ 授業の目的

「環境を通して行う」という幼児教育の基本をふまえ、その「環境」のもつ意味と役割、具体的な内容、環境の構成について学び、保育の本質についての理解を深めることを目的とする。そのことにより、「環境」のあり方は、小学校以降の教育にも通じる基本であることを実感できる。

■ ■ 授業の到達目標

1. 幼児期の発達の特徴を踏まえ、環境を通して行う教育の意義について理解することができる。
2. 幼児にとって意味のある環境と教師の役割について理解することができる。
3. 幼児の主体的な活動を促す環境の構成や再構成について、具体的に構想することができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- E: 学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
 F: 子どもの成長・発達と教育方法 ◎
 G: 教科・教育課程に関する知識と技能 ○
 H: 学校教育に関する様々な課題 △
 I: 他者との協働 ○

■ ■ 授業概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に基づく幼児期の教育の基本について、小学校教育との違いを検討しながら理解していく。その過程で、幼児にとっての環境の意味や環境を通して行う教育の意義を考える。また、保育実践事例を手掛かりに、幼稚園で学級担任として勤務した経験をもとに、想定しうる子どもの姿を伝えながら、環境の構成や再構成の在り方について考えていく。

■ ■ 授業の形式 (授業方法)

講義を基本とするが、各回とも授業テーマに沿った話題に基づきグループで協議を行い、自分なりの考えを上げ、深める。ビデオ視聴など、具体的な保育事例にできるだけ触れることにより、実践的に考察を深めていく。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回: オリエンテーション (幼児にとっての環境とは)
 第2回: 幼児期の発達の特徴
 第3回: 環境を通して行う教育
 第4回: 遊びを通しての総合的な指導と環境
 第5回: 環境としての教師の役割
 第6回: 環境の構成と保育計画の作成
 第7回: 保育実践事例を基に環境について考える1 (生活の場面)
 第8回: 保育実践事例を基に環境について考える2 (遊びの場面)
 レポート提出

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事後学習として、各回の小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

■ ■ 成績評価基準 (授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

成績評価の方法: 授業への積極的な参加態度(30%)、毎回実施の振り返り小レポート(40%)、課題レポート(30%)

成績評価の基準:

- ・ 幼児期の教育における「環境」の意味とその重要性について理解している。
- ・ 事例を基に環境の構成と再構成の在り方を具体的に構想している。

■ ■ 受講条件 (履修資格)

■ ■ メッセージ

■ ■ キーワード

環境を通して行う教育 幼児期にふさわしい生活 環境の構成と再構成 人的環境としての保育者 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

教科書1	ISBN	9784577814475				
	書名	幼稚園教育要領解説				
	著者名	文部科学省 [著],文部科学省,	出版社	フレーベル館	出版年	2018
	備考					

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

社会教育経営論 I

■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2395	1015EB2JC00103	【共同教育学部】選択科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
片山 哲也 [Tetsuya Katayama]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～4年次	2

■ ■ 授業の目的

社会教育経営論1は自治体をはじめ、社会教育団体などが地域の社会教育活動を通じて、地域づくりや活性化について実践するための基本原理を理解し、さらに社会教育機関の経営戦略や地域の学習課題を学ぶものとする。したがって、この授業ではそうした地域の社会教育に必要な基本知識の習得、社会教育計画の理解、施設経営の基本事項の理解・獲得をめざす。

■ ■ 授業の到達目標

1. 社会教育の実践を通じた地域活性化のあり方について理解する。
2. 社会教育を進めるための組織や経営のあり方について理解する。
3. 地域住民の学習課題の把握と、学習成果の還元の方法について理解する。
4. 社会教育を通じた地域人材育成の方法について理解する。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- ①優れた人間性と豊かな教養を有している者
- ⑤子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者
- ⑥子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者

■ ■ 授業概要

本科目では、社会教育経営に関する基礎的事項について扱う。第1に、社会教育と基盤とした地域活性化について学ぶ。第2に、社会教育行政と社会教育経営のあり方について理解を深める。第3に、地域住民の学習課題の把握と、広報を通じた学習成果の還元について考える。最後に、社会教育を通じた効果的な地域人材の育成について検討する。社会教育主事等として10年の実務経験のある教員が、指導及び授業計画を立て、実務家教員としての経験を踏まえて実践的に学習する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

アクティブラーニング（グループワーク・問題解決学習・発見学習・討議・発表・調査・教え合い・対話などの方法を使って授業は受講生で創る）ことを主たる形態とし、本年度からの新教科であることを踏まえ、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター著作「社会教育経営論」を通じて学びを深める事とする。必要に応じて国立教育政策研究所社会教育実践研究センター著作動画「社研の窓」の視聴を通じて学びを深める。」

■ ■ 授業スケジュール

No.	内容
	授業オリエンテーション
第1回	* 授業の進め方 * 社会教育行政と地域活性化(1)：社会教育施設での取り組み * テキスト「社会教育経営論」第1章社会教育と地域活性化①
第2回	社会教育行政と地域活性化(2)：学校教育との連携 * テキスト「社会教育経営論」第1章社会教育と地域活性化②
第3回	社会教育行政と地域活性化(3)：産官学連携による取り組み * テキスト「社会教育経営論」第1章社会教育と地域活性化③
第4回	社会教育行政と地域活性化(4)：地域活性化にむけた演習 * テキスト「社会教育経営論」第1章社会教育と地域活性化④
第5回	社会教育行政の経営戦略(1)：教育経営学と社会教育経営 * テキスト「社会教育経営論」第2章社会教育行政の経営戦略①
第6回	社会教育行政の経営戦略(2)：社会教育組織と社会教育経営 * テキスト「社会教育経営論」第2章社会教育行政の経営戦略②
第7回	社会教育行政の経営戦略(3)：個々の学習支援と経営戦略 * テキスト「社会教育経営論」第2章社会教育行政の経営戦略③
第8回	社会教育行政の経営戦略(4)：経営戦略に関わる演習 * テキスト「社会教育経営論」第2章社会教育行政の経営戦略④
第9回	学習課題の把握と広報戦略(1)：社会教育二ーズの把握 * テキスト「社会教育経営論」第3章社会教育の現状把握と広報戦略①
第10回	学習課題の把握と広報戦略(2)：生涯学習成果の還元 * テキスト「社会教育経営論」第3章社会教育の現状把握と広報戦略②
第11回	学習課題の把握と広報戦略(3)：広報活動の支援 * テキスト「社会教育経営論」第3章社会教育の現状把握と広報戦略③
第12回	学習課題の把握と広報戦略(4)：学習課題把握と広報についての演習 * テキスト「社会教育経営論」第3章社会教育の現状把握と広報戦略④
第13回	社会教育における地域人材の育成(1)：ボランティア活動と社会教育

	*テキスト「社会教育経営論」第4章社会教育における人材育成①
第14回	社会教育における地域人材の育成(2)：ボランティア活動と社会教育 *テキスト「社会教育経営論」第4章社会教育における人材育成②
第15回	社会教育における地域人材の育成(3)：ボランティア活動と社会教育 *テキスト「社会教育経営論」第4章社会教育における人材育成③
第16回	予備（レポート提出日）

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技 授業30～45時間、授業時間外15～0時間

事前学習

1. テキストの各自課題のプレゼン（発表資料作成）
2. 授業時間内で課題についてグループワークで学ぶ方法を定める。
3. 発表の方法など決めて取り組む。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

「成績評価の方法」

*社会教育事業計画を作成しレポート30% *平常点＝授業に取り組む姿勢（課題に対する意見をワークシート記入した文章で評価）40% *プレゼン（作成資料と発表）30%

「成績評価の基準」

*課題に対するプレゼンが適切にでき、授業に積極的に参加し自分の意見を発言できる。

■ 受講条件（履修資格）

将来社会教育に就きたいと意欲があることが望ましい。教員として生きていくとしても、社会教育の大切さを知って、学校教育に生かしたいと考えていること

■ メッセージ

社会教育は学校教育と子どもが成長するためには両輪であるという。しかしながら社会教育に接する機会のないまま教員を続けることが多い。実際社会教育を経験すると視野が広がり、大きな意味があったことがわかる。よい教員として生きるために役立つことは間違いありません。社会教育はすごいです。

■ キーワード

社会教育, 生涯学習, 成人教育, 成人学習論, 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

生涯学習概論

■ 次に履修が望まれる科目

社会教育実践研究1, 2

■ 関連授業科目

生涯学習支援論

■ 教科書

教科書1	ISBN	9784324108055				
	書名	社会教育経営論				
	著者名	浅井経子執筆・編集代表；国立教育政策研究所社会教育実践研究センター [編], 浅井, 経子, 国立教育政策研究所社会教育実践研	出版社	ぎょうせい	出版年	2020
	備考					

備考	テキストは必ず各自購入すること、毎時間使います。 その他、参考文献については必要があれば授業時に適宜指示する。
----	--

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

授業の中で指示

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク